Nagoya Medical Journal（名古屋市立大学医学会関連）投稿規定

(1) 筆頭著者は本会会員に限る.

(2) 投稿カテゴリーは以下のa）–d）とする.

a）総説

b）原著，臨床報告

他誌に発表済み，あるいは投稿中のものは受理しない（抄録として発表したものはこの限りでない）．また，その一部もしくは全てを他誌に投稿,掲載する予定のないものに限る（本誌オープンアクセス化にともない，二重投稿には十分にご留意ください）.

c）本会記事，演題抄録（一般演題は400字以内）

d）その他

(3) 倫理規定

a）研究不正

投稿された論文に研究不正（捏造，データ改ざん,二重投稿,剽窃など）の疑義がある場合，幹事会による調査を実施する．調査の結果，研究不正が確認された場合には，著者の所属機関および資金提供機関に通報する．不正の内容によっては，当該著者からの以降の投稿を受付けないこととする.

b）研究倫理

人を対象にした研究においては，ヘルシンキ宣言（1964年承認，2013年修正）が遵守され，かつ所属機関等の倫理審査委員会による承認されていることが必要である．動物実験においては，動物実験のガイドラインに適合し，かつ動物実験委員会で承認されている必要がある．いずれにおいてもその旨を，研究計画承認番号とともに原稿中に明記しなければならない.

(4) 原稿作成については,下記事項に注意すること．注意事項が遵守されていない原稿は受理しない.

原稿はMicrosoft Wordを用いて作成する．A４版の用紙設定で，フォントサイズ12を用いる．各用紙の左右は2.5cm以上，上下は３cmの余白を設け，フッターに頁番号，左側余白に行番号（タイトルページには不要，連続番号）を表示する.

Microsoft Wordで作成した原稿をPDFに変換し，Microsoft Word版とPDF版を合わせて投稿するものとする.

a）原稿は以下の内容で構成される.

A．タイトルページ

B．英文要約

C．本文

D．引用文献

E．図表

b）タイトルページには表題，著者名，著者の所属を含み，それらの英文訳を添える.

c）総説，原著，臨床報告には250字以内の英文要約を添付する.

d）横書き，常用漢字，ひらがな，新かなづかいを用い，口語体とする．代名詞，接続語，助動詞，副詞は例外を除きかな書きにする.

〔例〕あるいは，おける，および，ごとく，さらに，しかし，すなわち，それぞれ，なお，ならびに，ほぼ，または

詳細は「国語表記の基準」に従う.

e）「外国の人名，地名および物件名」などは原則として原字を用い，大文字と小文字の区別を明確にする．慣用された日本語訳名のある場合は外国綴りにしない.

f）貢献 Research Contribution

全著者の論文内容における貢献について記載しなければならない.

g）謝　　辞

公的および企業等からの支援を含む，すべての資金提供者の名前をここに記すこと．原稿に貢献したが，著者資格の基準を満たさないすべての研究者は，謝辞を述べなければならない．メディカルライター，校正者は著者として記載すべきではないが，謝辞を述べなければならない.

h）利益相反 Conflict of Interest

著者は，投稿時に，投稿論文に重要な位置を占める製品の製造会社や競合する製品の製造

Presented by Medical*Online

会社と金銭的な取り決めをしている場合，利益相反となるような金銭的支援や関係を申告する　必要がある．また，責任著者は，原稿の全著者から関連情報を収集する責任を負うものとする．

i）文　　献

①雑誌の引用：

著者名，論文題名，雑誌名，巻数，始頁–了頁，年号（西暦）の順に記載する．

注：〈1〉著者が3名以下の場合は，全著者名を記載する．4名以上の場合は，初めの3名までを記載し，以降は和文文献では他，英文文献ではet alとする．

〈2〉雑誌号数は原則として書かない．ただし，号によって頁数が変わる雑誌に限り巻数のあとに号数を括弧して入れる．

〈3〉日本語雑誌では雑誌の略称は使用しない．外国語雑誌では「PubMedおよびIndex Medicus」にならう．

〔例〕雑　　誌

1）中沢貴宏，大原弘隆，安藤朝章他：自己免疫性膵炎の病理組織学的診断．胆と膵，28：951–956，2007.

2）Fujii K, Murase T, Bepp S, et al：New MYB, MYBL 1, MYBL 2 and NFIB gene alterations and MYC overexpression in salivary gland adenoid cystic carcinoma. Histopathology, 71：823–834, 2017.

②書籍引用

執筆者，表題，書名（編集者名），発行元（出版社など），巻数，引用箇所の始頁–了頁，年号（西暦）の順に記載する．単独執筆の場合は著者名，書名，発行元，引用場所の始頁–了頁，年号の順とする．

〔例〕書　　籍

（分担執筆の場合）

1）三谷幸之介：遺伝子治療とゲノム編集．完全版　ゲノム編集実験スタンダード（山本卓，佐久間哲史 編），羊土社，340–346頁，2019.

2）Sanders KM：Spontaneous electrical activity and rhythmicity in gastrointestinal smooth muscles. ‘Smooth muscle spontaneous activity -Physiological and pathological modulation-’（ed Hashitani H, Lang RJ）, Springer, pp. 3–46, 2019.

（単独執筆の場合）

3）大手信之：循環器医のための実践臨床循環生理学），メジカルビュー社，137–144頁，2021.

(5) 投稿方法

原稿は,名古屋市立大学医学会へメール添付にて送付（igakkai@med.nagoya-cu.ac.jp）またはUSBにて直接持参のこと．原稿は，Microsoft Wordを用いて作成する．またMicrosoft Wordで作成した原稿に図表を含めたPDFファイルを作成し，あわせて送付すること．論文投稿前に，専門的な知識を有するネイティブ・スピーカーによる英文校正を受けることを推奨する．

(6) 査　　読

原稿は，責任査読者のもと，編集委員会の責任において査読される．複数の査読者の評価をもとに，編集者委員会において必要な修正を経て採否が決定される．論文が受理された際には，必要に応じて編集委員会からの指示により英文校正を受けなければならない．英文校正にかかる費用は，全て著者の負担とする．

(7) 掲載費用

著者は，依頼原稿を除き，論文採択時に掲載費用50,000円を支払うものとする．

(8) 著作権

論文の版権は，依頼原稿も含めて，掲載の決定と同時に名古屋市立大学医学会に帰属する．掲載論文の一部，もしくは全部を転載しようとする場合は，著者はあらかじめ名古屋市立大学医学会の承認を得なければならない．

(9) オープンアクセスポリシー

本誌に掲載された論文は，名古屋市立大学医学会ホームページにおいて公開され，自由にダウンロードできる．また当該論文を引用し版権（著作権者のクレジットの表示）を明示すれば，再利用・改変利用・コピー・配布することができる．

Presented by Medical*Online